

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

義務教育課

## 1 調査結果について

## (1) 教科について

## ① 結果の概要（教科別平均正答率）

対象児童生徒	小学校6年生			中学校3年生		
	国語	算数	合計	国語	数学	合計
R3大分県（公立）	66	70	136	66	57	123
R3全国（公立）	65	70	135	65	57	122
全国値との差	+1	0	+1	+1	0	+1

## ② 教科分析

○低学力層（20%未満）の割合は、各教科とも全国値よりも低い。

【小学校国語】 ○領域「書くこと」の結果が、全国値と比べて4.1ポイント上回る。

▲領域「読むこと」の結果が、全国値と比べて0.7ポイント下回る。

【小学校算数】 ○記述式問題の無解答率（記述なし）は全国値に比べて少ない。

▲領域「数と計算」以外の4領域で全国値を下回る。特に、データの特徴や傾向を読み取ることに課題がある。

【中学校国語】 ○全ての領域で、全国値を上回る。

【中学校数学】 ▲領域「図形」の結果が、全国値と比べて3.0ポイント下回る。記述式問題の正答率が低い。

## (2) 質問紙調査について

○「教科の勉強は好き」「内容は分かる」について、各教科とも全国値を上回る。

▲「学校に行くのは楽しい」について、経年比較では小中ともに下降傾向である。

▲「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」について、2時間以上と回答した児童生徒は、経年比較では小中ともに年々増加している。

▲学校組織に関する質問項目について、「よく行った」「よくしている」の回答率は、全国値に比べて高いが、H31と比べて減少している。

○新型コロナウイルス感染拡大で、臨時休校(R2.3~5)が終了した以降の対応について、「定着が不十分である児童を対象とした補習」を行った学校は、全国値と比べて大きく上回る。

## 2 今後の取組について

(1) 授業力を高めることにより、自立した学習者を育成する組織的な取組の推進

(2) With コロナにおける特別活動や体験的な学習の保障

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果

資料1

## 1 調査の概要

- (1) 調査期日 令和3年5月27日(木)  
 (2) 調査を実施した児童・生徒数(学校数)  
 ◆小学校6年生 9,092人(244校)  
 ◆中学校3年生 8,911人(119校)

※調査対象児童生徒が在籍する  
 ・市町村立小中学校(義務教育学校含)  
 ・県立中学校・県立特別支援学校

### (3) 調査内容

- ◆教科に関する調査:国語, 算数・数学  
 ◆児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査

#### <調査の目的>

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 結果の概要(教科別平均正答率)

### 小学校

- 国語は、全国平均正答率を上回り、算数は全国平均並み。合計値は全国値を1ポイント上回る。

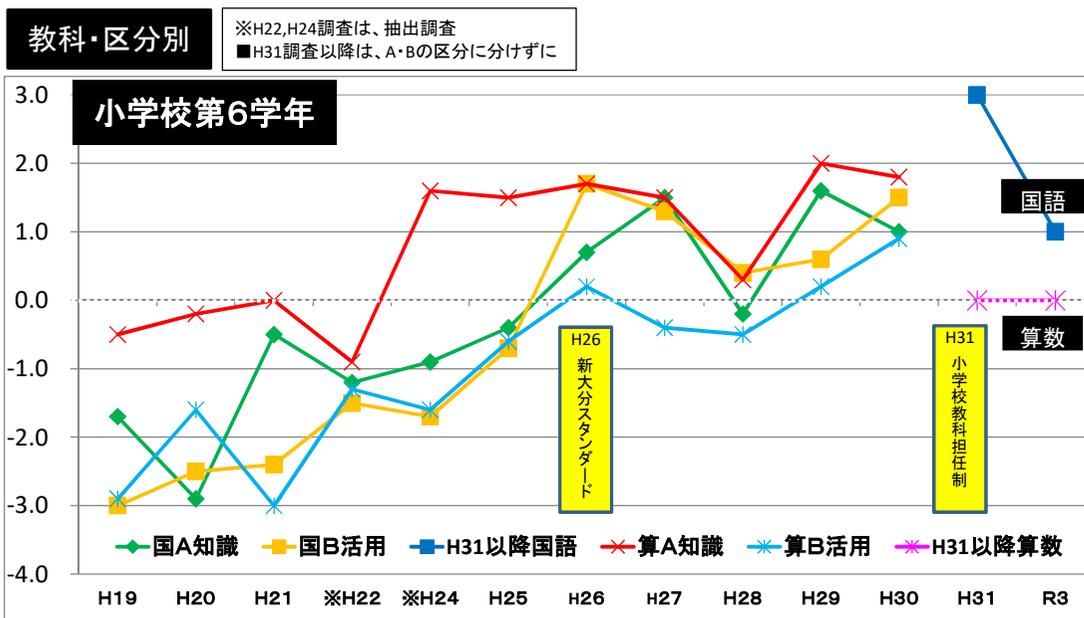
### 中学校

- 国語は、全国平均正答率を上回り、数学は全国平均並み。合計値は全国値を1ポイント上回る。

対象児童生徒	小学校6年生		合計	中学校3年生		合計
	国語	算数		国語	数学	
R3大分県 (公立)	66	70	136	66	57	123
R3全国 (公立)	65	70	135	65	57	122
全国値との差	+1	0	+1	+1	0	+1

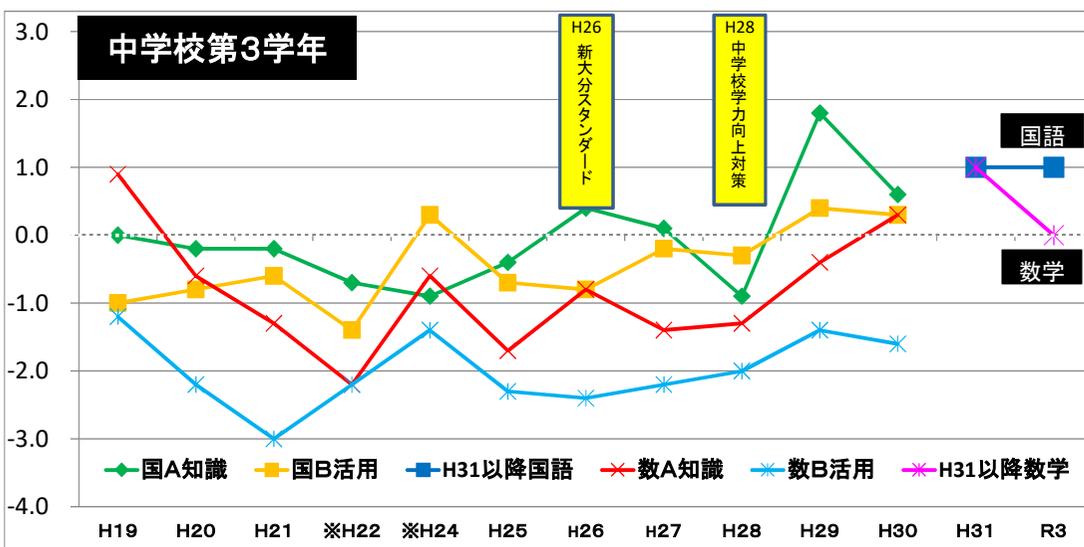
# 全国学力・学習状況調査 全国値との差の推移

## 資料2



※H22,H24調査は、抽出調査  
■文部科学省は、序列化や過度な競争を避けるため、都道府県別数値は整数値での公表に変更

対象学年	小学校第6学年			
	国語		算数	
	A知識	B活用	A知識	B活用
R3	1		0	
H31	3		0	
H30	1.0	1.5	1.8	0.9
H29	1.6	0.6	2.0	0.2
H28	-0.2	0.4	0.3	-0.5
H27	1.5	1.3	1.5	-0.4
H26	0.7	1.7	1.7	0.2
H25	-0.4	-0.7	1.5	-0.6
※H24	-0.9	-1.7	1.6	-1.6
※H22	-1.2	-1.5	-0.9	-1.3
H21	-0.5	-2.4	0.0	-3.0
H20	-2.9	-2.5	-0.2	-1.6
H19	-1.7	-3.0	-0.5	-2.9



対象学年	中学校第3学年			
	国語		数学	
	A知識	B活用	A知識	B活用
R3	1		0	
H31	1		1	
H30	0.6	0.3	0.3	-1.6
H29	1.8	0.4	-0.4	-1.4
H28	-0.9	-0.3	-1.3	-2.0
H27	0.1	-0.2	-1.4	-2.2
H26	0.4	-0.8	-0.8	-2.4
H25	-0.4	-0.7	-1.7	-2.3
※H24	-0.9	0.3	-0.6	-1.4
※H22	-0.7	-1.4	-2.2	-2.2
H21	-0.2	-0.6	-1.3	-3.0
H20	-0.2	-0.8	-0.6	-2.2
H19	0.0	-1.0	0.9	-1.2

# 平均正答率の分布一覧

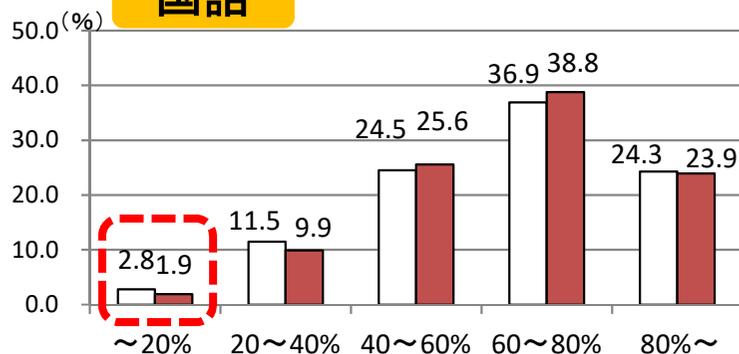
資料3

## 小学校

## 中学校

□ 全国 ■ 大分県

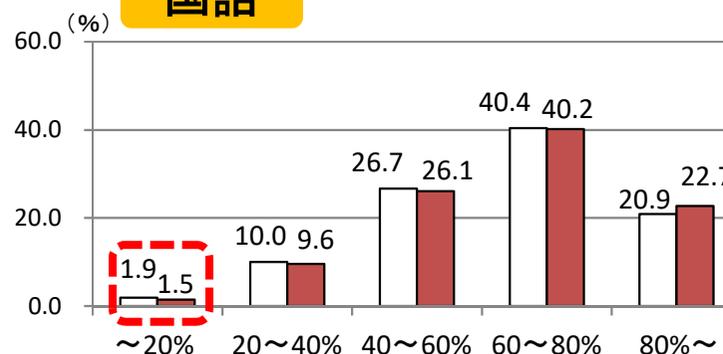
### 国語



低学力層の割合の全国平均値との差の推移

全国値と比較すると、0.9ポイント少ない。

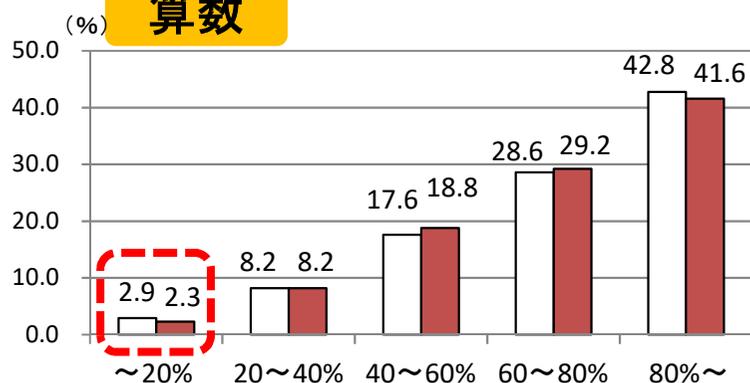
### 国語



低学力層の割合の全国平均値との差の推移

全国値と比較すると、0.4ポイント少ない。

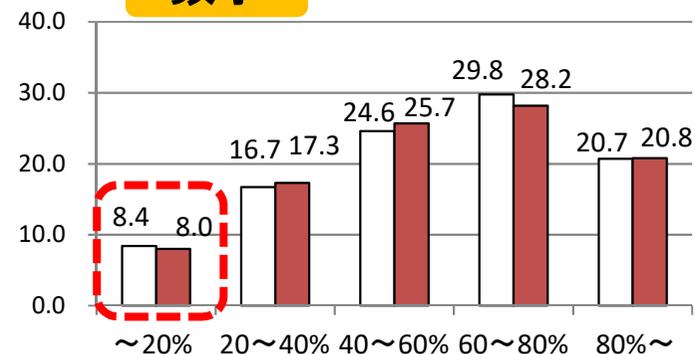
### 算数



低学力層の割合の全国平均値との差の推移

全国値と比較すると、0.6ポイント少ない。

### 数学



低学力層の割合の全国平均値との差の推移

全国値と比較すると、0.4ポイント少ない。

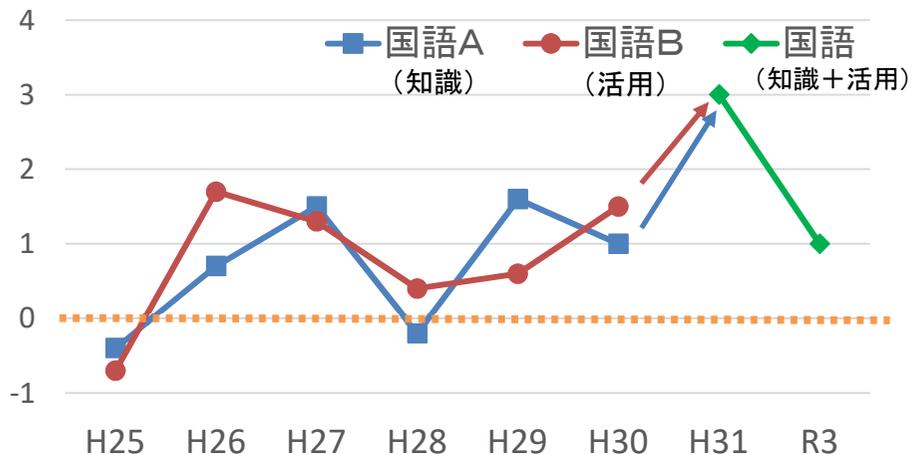
# 小学校国語

# 令和3年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

## 資料4

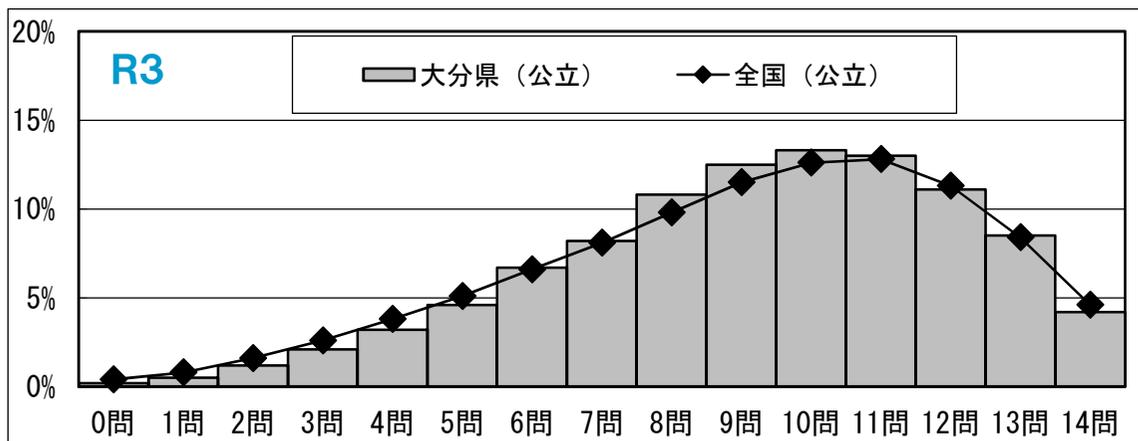
### 結果のポイント

#### 1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回ったが、H31に比べて下回る。

#### 3 正答数度数分布



○「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点  
は全国平均を上回る。

○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)  
が全国平均より少ない。

○正答数が全国平均以上(9問以上)の児童  
は62.6%であり、全国値61.2%を上回る。

### 2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.7	68.3
(2) 情報の扱い方に関する事項	対象問題数0のため数値なし	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	対象問題数0のため数値なし	
A 話すこと・聞くこと	77.4	77.8
B 書くこと	64.8	60.7
C 読むこと	46.5	47.2

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」で、全国平均を上回る。

▲「話すこと・聞くこと」「読むこと」で、全国平均を下回る。

### 3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	69.7	68.3
思考・判断・表現	62.7	62.1
主体的に学習に取り組む態度	対象問題数0のため数値なし	

## □ 課題が見られた問題と指導の改善

### 1 正答率が低かった問題

大問2 設問四【平均正答率 大分県28.9% 全国29.7%】  
 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかを見る問題。

四 【資料】を読み、条件に合わせて要約する。

<条件>

- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方について書くこと。
- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 50字以上、70字以内にまとめて書くこと。



### 指導の改善

#### 【学習指導のポイント】

目的に応じて、必要な情報を見付け、まとめて書くことができるようにする。

- 要約するとは、文章全体の内容を把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章内容を短くまとめることである。同じ文章でも、要約する目的によって内容の中心となる語や文は異なる場合がある。文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが大切である。
- 指導に当たっては、以下のような学習活動が考えられる。  
 「目的に応じて、必要な情報を見付ける学習」  
 (※ 同じ文章を活用した学習を想定)

【例1】

面ファスナーが開発されたきっかけについてまとめる。  
 → きっかけとなった出来事について書かれている部分を中心に読み、「狩猟のため、愛犬をつれて山に登った」「犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていてに気がつきました」といった必要な情報を見付けて要約することが考えられる。

【例2】

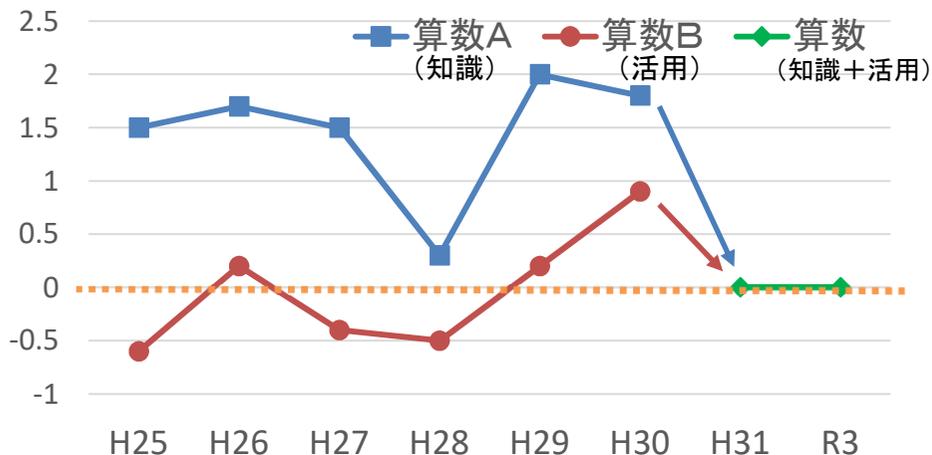
面ファスナーが日本で広く知られるようになったきっかけについてまとめる。

# 小学校算数

# 令和3年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

## 結果のポイント

### 1 全国平均との差の経年変化



・全国平均並みである。

### 2 領域別の結果

学習指導要領の領域	県	全国平均
A 数と計算	64.1	63.1
B 図形	56.9	57.9
C 測定	74.7	74.8
C 変化と関係	74.9	75.9
D データの活用	75.7	76.0

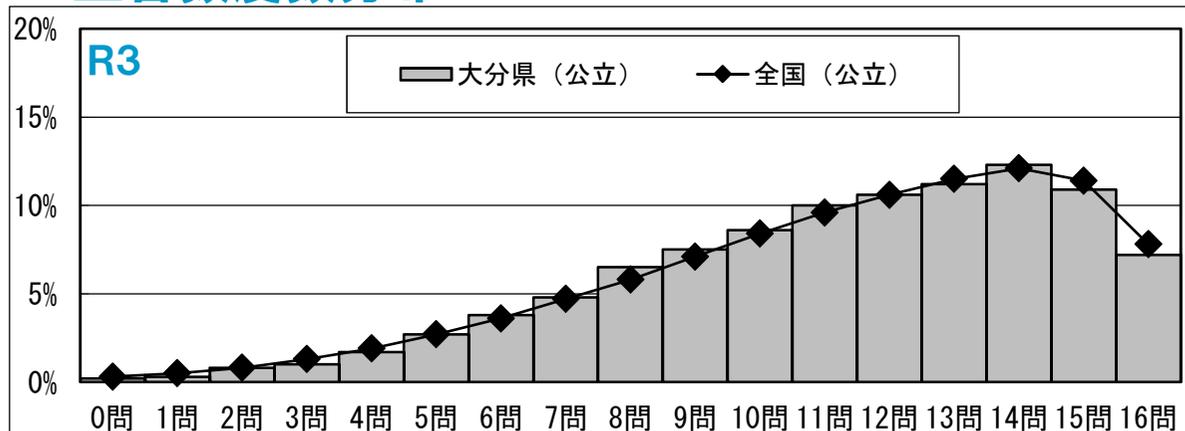
○「数と計算」で全国平均を上回る。  
 ▲「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国平均を下回る。

### 3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	73.8	74.1
思考・判断・表現	65.1	65.1
主体的に学習に取り組む態度	対象問題数0のため数値なし	

○「思考・判断・表現」の観点は全国平均並みである。  
 ▲「知識・技能」の観点で全国平均を下回る。

### 4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。  
 ▲正答数が全国平均以上(11問以上)の児童は62.2%であり、全国値63.0%を下回る。

# 小学校算数

# 令和3年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

## 課題が見られた問題と指導の改善

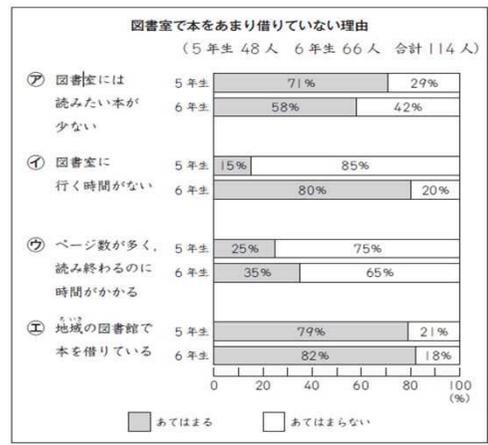
### 1 正答率が低かった問題

大問3(4)【大分県平均正答率50.8%，大分県無回答率8.3%】  
 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いた記述できるかどうかをみる問題

(4) 次に、ひよりさんたちは、読書が好きなのに、図書館で本をあまり借りなかった114人に着目しました。

ひより 図書館で本をあまり借りていない理由について、5年生と6年生で、ちがいがありませんか。

そこで、114人分のアンケート調査の結果を、5年生と6年生に分けて、下のグラフに表しました。



ひよりさんたちは、左のグラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

そうたさんとあやのさんは、左のグラフの中の②から④までの4つの項目について、「あてはまる」と答えた人の割合に着目しました。

そうた 5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらいの項目があります。

あやの 5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目もありますね。

左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。

項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

## 指導の改善

### 【学習指導のポイント】

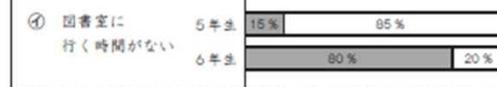
複数のデータから項目間の違いに着目し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにする

○複数のデータについて項目の割合を比較するために、帯グラフからそれぞれの割合を読み取ることができるようにすることが重要である。また、各項目の特徴や傾向を読み取ることができるようにすることも重要である。

○指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらいの項目や、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が、大きく違う項目を伝え合う活動が考えられる。

その際、下の図のように、一つの項目から5年生と6年生の「あてはまる」と答えた人の割合をそれぞれ読み取ることができるようにすることが大切である。また、帯グラフからデータの特徴や傾向を読み取るために、帯グラフのどの部分に着目したのかななどを説明できるようにすることも大切である。

「帯グラフからどのようなことがわかりますか？」



「あてはまる」の部分の長さが大きくちがうので、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目は、「④図書館に行く時間がない」です。

解答類型		県平均正答率	全国平均正答率
正答例	・5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目は、「④ 図書館に行く時間がない」です。この④の「あてはまる」と答えた5年生は15%で、6年生は85%です。	50.8%	52.0%
誤答例	・「⑤ 地域の図書館で本を借りている」を表す言葉や記号を書いている。 ※5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが一番大きい項目を、5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合が大きい項目と捉えている。	16.8%	14.6%
	無解答	8.3%	10.3%

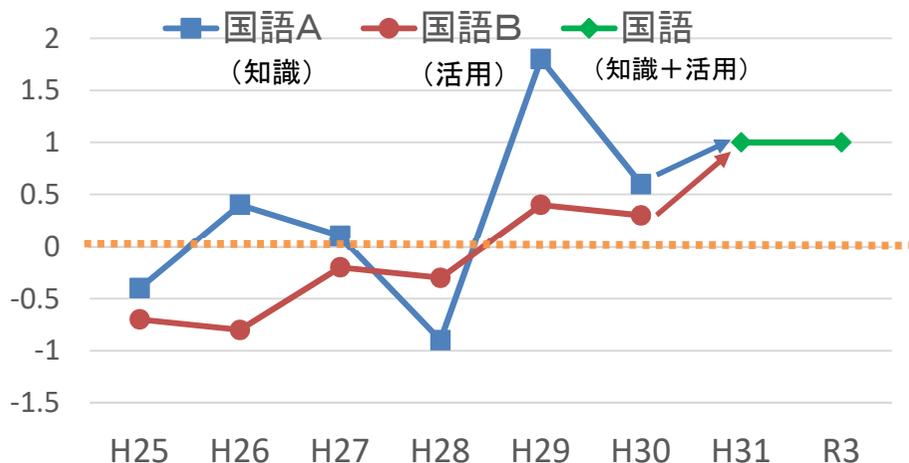
# 中学校国語

# 令和3年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

資料5

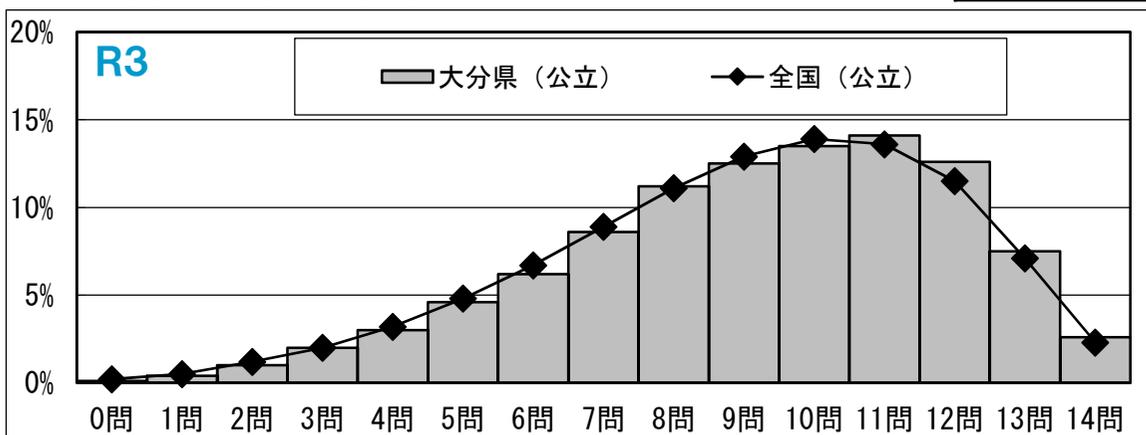
## 結果のポイント

### 1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回っており、H31と同程度である。

### 3 正答数度数分布



○全ての領域において全国平均を上回る。

○低学力層の生徒の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。

○正答数が全国平均以上(9問以上)の生徒は62.8%であり、全国値61.3%を上回る。

## 2 領域別の結果

領域	県	全国平均
A 話すこと・聞くこと	82.1	79.8
B 書くこと	58.1	57.1
C 読むこと	49.1	48.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.5	75.1

○全ての領域で、全国平均を上回る。

▲「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」問題の無解答率が10.8%であり、全国平均を下回る。

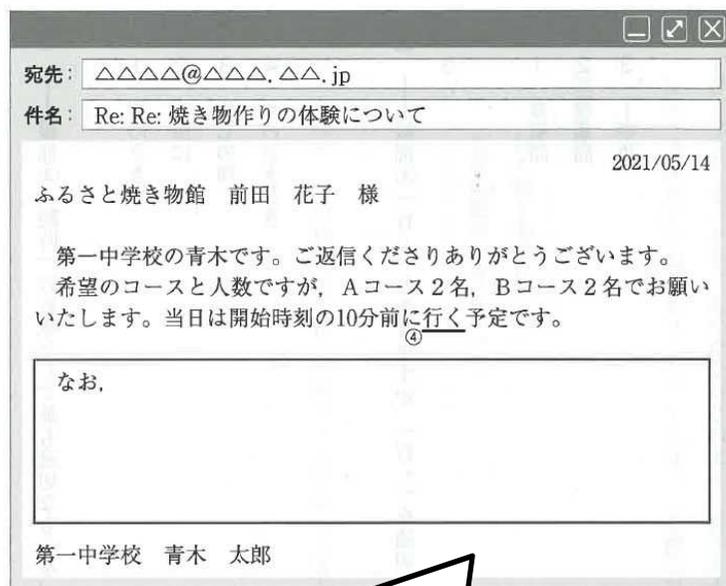
## 3 観点別の結果

領域	県	全国平均
国語への関心・意欲・態度	57.2	56.0
話す・聞く能力	82.1	79.8
書く能力	58.1	57.1
読む能力	49.1	48.5
言語についての知識・理解・技能	75.5	75.1

## □ 課題が見られた問題と指導の改善

### 1 正答率が低かった問題

大問4 設問四【平均正答率 大分県71.2% 全国71.9%】  
伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみる。



青木さんが送信する【二回目のメールの下書き】

〈確認事項〉

- ・持ち物と服装について
- ・写真撮影の許可について

四【メールの下書き】の  の部分に、事前に確かめておきたいこととして、〈確認事項〉について書く場合、どのように書くか。相手に失礼のない表現で書くこと。

### 指導の改善

#### 【学習指導のポイント】

目的や意図に応じて、読み手に分かりやすく伝わるように書くことができるようにする。

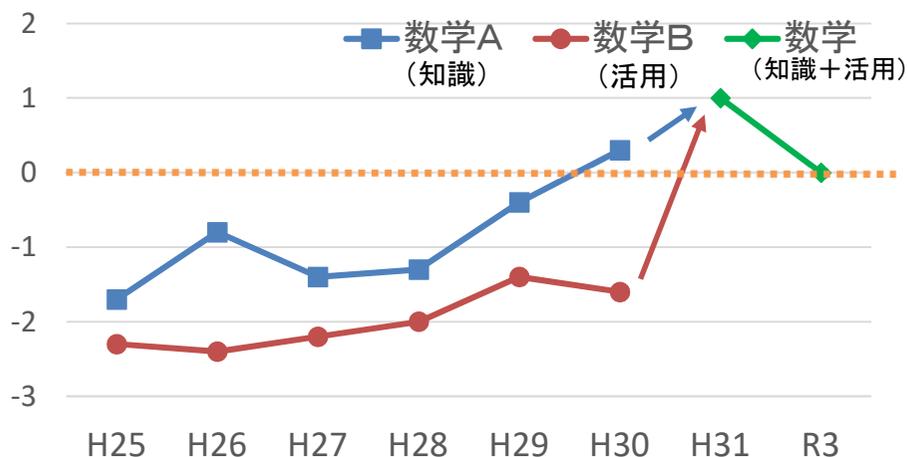
- 伝えたいことを読み手に分かりやすく伝えるためには、目的や意図に応じて説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写を工夫したりするように指導することが大切である。
- 指導に当たっては、以下のような例が考えられる。
  - ・社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなどの学習活動。その際、音声言語としての話し言葉と文字言語としての書き言葉の特徴について理解するように指導する。
  - ・職場体験に関する問合せのメールに対して回答するメールの文章を書く。その際、相手の要望を的確に捉え、相手や目的に応じて内容や構成を工夫し、必要な情報を過不足なく書くことを意識させる。  
(※「平成27年度【中学校】授業アイデア例」を参照)

# 中学校数学

## 令和3年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

### 結果のポイント

#### 1 全国平均との差の経年変化



・全国平均並みである。

#### 2 領域別の結果

領域	県	全国平均
A 数と式	65.3	64.9
B 図形	48.4	51.4
C 関数	56.4	56.4
D 資料の活用	55.9	53.8

○「数と式」「資料の活用」の2つの領域で全国平均を上回る。  
 ▲「図形」領域の数値が全国平均を下回る。条件を用いて説明する記述式問題の正答率が低い。

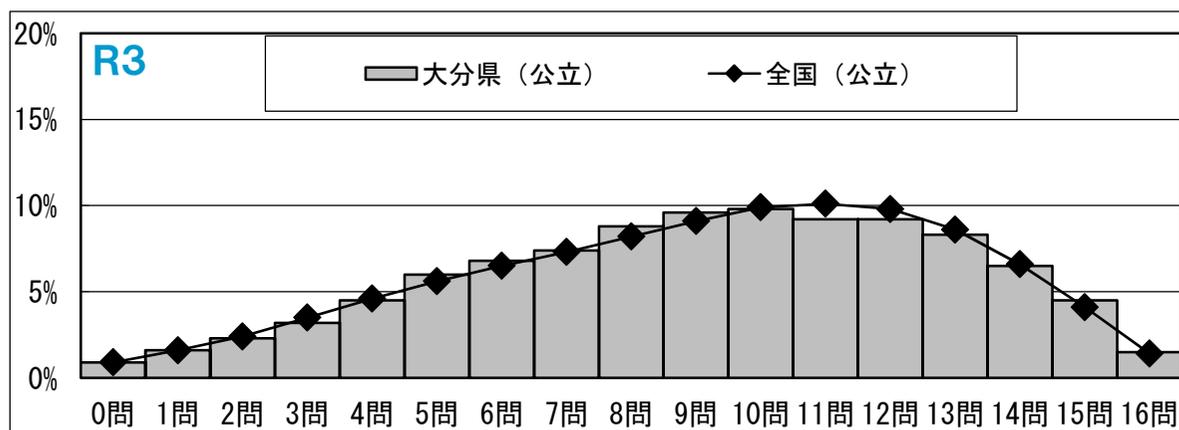
#### 3 観点別の結果

領域	県	全国平均
数学への関心・意欲・態度	対象問題数0のため数値なし	
数学的な見方や考え方	39.5	41.1
数学的な技能	80.9	77.7
数量や図形などについての知識・理解	65.6	65.6

○「技能」の観点において全国平均を上回る。  
 ▲「数学的な見方や考え方」の観点で全国平均を下回る。

○低学力層の生徒の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。  
 ▲正答数が全国平均以上(9問以上)の生徒は58.6%であり、全国値59.6%を下回る。

#### 4 正答数度数分布



# 課題が見られた問題と指導の改善

## 1 正答率が低かった問題

**大問9(3)【大分県平均正答率38.4% 全国平均正答率44.3%】**  
 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができるかどうかをみる問題。

⑨ 30°、60°、90°の同じ三角定規を2つ用意し、それぞれ△ABC、△DEFとします。直輝さんと由衣さんは、この2つの三角定規を組み合わせてできる四角形について考えることにしました。

二人は、2つの三角定規を右の図1のように、点Aと点F、点Cと点Dが重なるように並べました。このとき、四角形ABCEができます。

次に、図2のように、点Dが辺BC上にあり、辺EFが辺BCと平行になるように、△DEFを△ABCに重ねました。辺ABと辺FD、辺EDと辺ACの交点をそれぞれ点P、Qとすると、四角形APDQができます。

そして、図3のように、点Dが辺BC上にあり、辺EFが辺BCと平行になるように、△DEFを左に動かしました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 二人は、前ページの図1の四角形ABCEが平行四辺形になると予想し、予想が成り立つことを示すために、次の図4をかきました。

図4において、△ABCと△CEAは合同なので、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことがわかります。このことから、四角形ABCEが平行四辺形になることは、平行四辺形になるための条件を用いて説明できます。下のア、イのどちらかを選び、選んだ条件を用いて説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

イ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

## 指導の改善

**【学習指導のポイント】**  
 事柄が成り立つことについて、根拠を明確にして説明することができるようにする

○事柄が成り立つことを説明するためには、何を示せばよいかを明らかにし、着目すべき性質や関係を見いだす活動を取り入れ、根拠を明確にして説明することができるように指導することが大切である。

○本設問を使って授業を行う際には、四角形ABCEが平行四辺形になることを説明するために、平行四辺形になるための条件を示せばよいことを明らかにし、どの条件を用いればよいかについて検討する活動を取り入れることが考えられる。

その際、△ABCと△CEAが合同であることを基に、対応する辺や角の等しい関係に着目して、平行四辺形になるための条件を確認する

解答類型		県平均 正答率	全国平均 正答率
正答例	〈アを選択〉 $AB=CE$ .....① $BC=EA$ .....② ①、②より、2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。 〈イを選択〉 $\angle ABC=\angle CEA$ .....① $\angle EAB=\angle BCE=120^\circ$ .....② ①、②より、2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。	38.4%	44.3%
誤答例	・条件となる辺を具体的に記述していない。 ・選択した条件に合う具体的な記述ができていない。 ※根拠として用いる2組の向かい合う辺の相等を具体的に明示することができなかったと考えられる。	13.5%	11.6%
	無解答	3.5%	3.6%

「どの条件を用いれば平行四辺形であることがいえるかな？」

「条件を用いるためには、何が分かればよいだろうか？」

## 児童生徒質問紙調査の結果①

資料6

## 国語

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

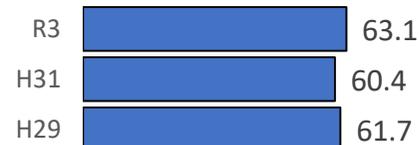
◆ (小中) 「授業の内容はよく分かりますか」と回答した児童生徒は、H31年度と比べると小学校は1.5ポイント、中学校は5.3ポイント増加している。

## ■ ①国語の勉強は好きですか(小)



R3全国値:58.4

## ■ ①国語の勉強は好きですか(中)



R3全国値:60.8

## ■ ②授業の内容はよく分かりますか(小)



R3全国値:84.2

## ■ ②授業の内容はよく分かりますか(中)



R3全国値:80.1

## 算数・数学

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

◆ (小中) 「授業の内容はよく分かりますか」と回答した児童生徒は、H31年度と比べると小学校は2.7ポイント、中学校は3.9ポイント増加している。

## ■ ③算数の勉強は好きですか(小)



R3全国値:67.8

## ■ ③数学の勉強は好きですか(中)



R3全国値:59.1

## ■ ④授業の内容はよく分かりますか(小)



R3全国値:84.6

## ■ ④授業の内容はよく分かりますか(中)

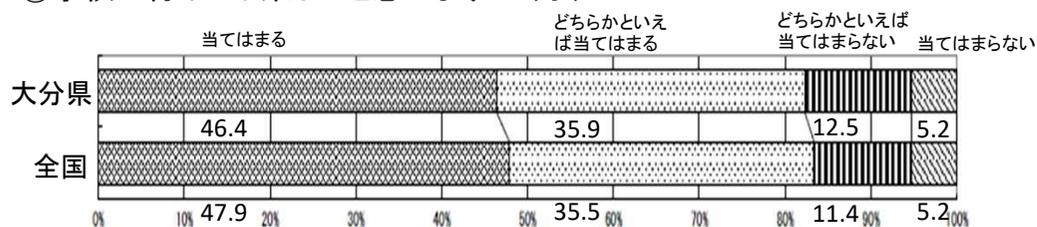


R3全国値:74.6

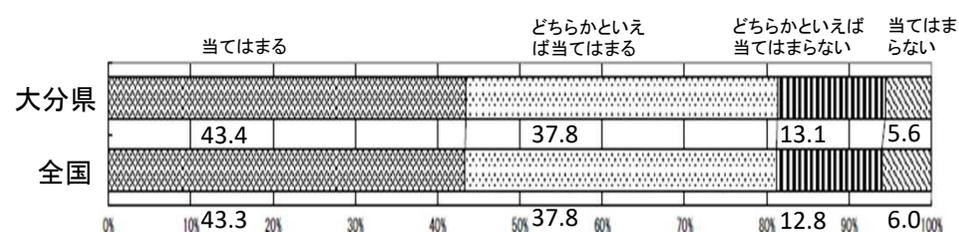
## 児童生徒質問紙調査の結果②

◆ (小中) 「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、肯定的な回答をした児童生徒は、全国値と比べると小学校は82.3で1.1ポイント少なく、中学校は81.2で0.1ポイント多い。

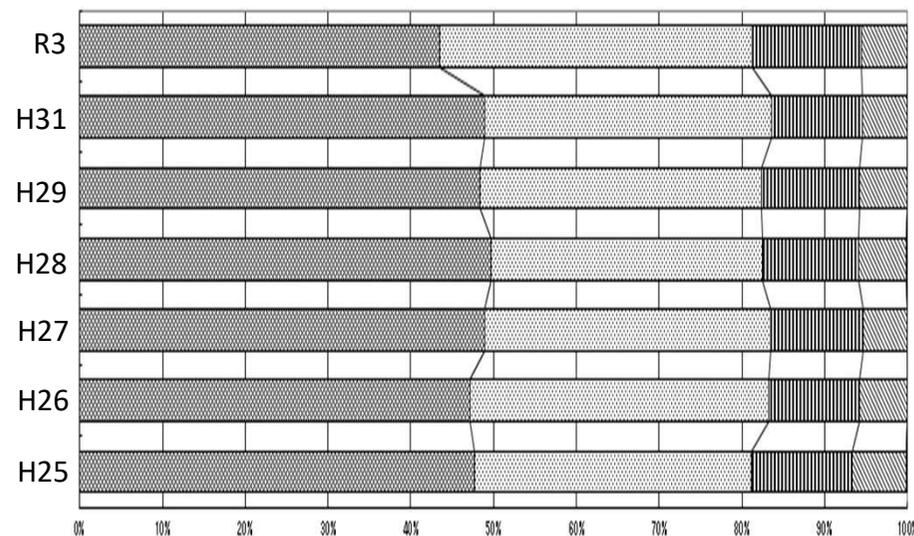
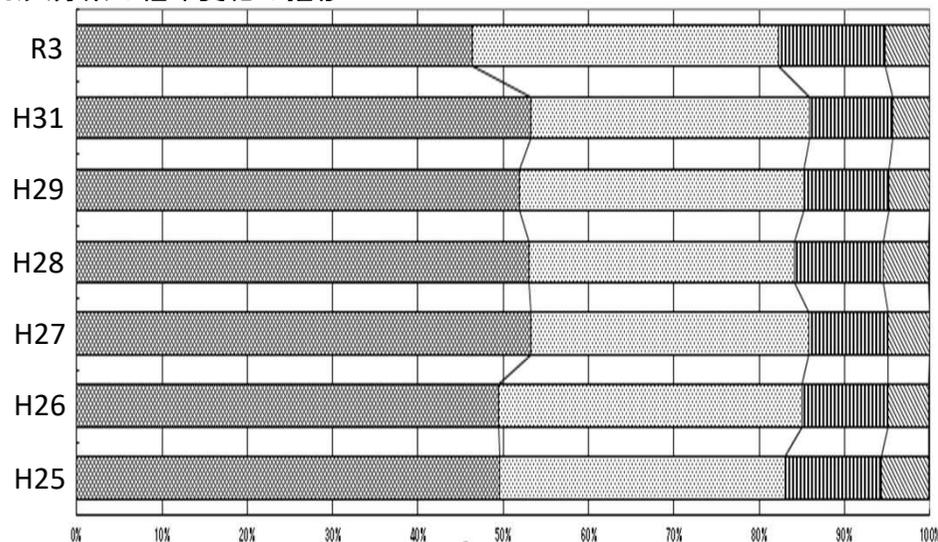
### ■ ⑤学校に行くのは楽しいと思いますか(小)



### ■ ⑤学校に行くのは楽しいと思いますか(中)



### ※大分県の経年変化の推移



## 児童生徒質問紙調査の結果③

### 新大分スタンダード

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

- ◆ (小中) 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒は、H31年度と比べると小学校は4.6ポイント、中学校は3.9ポイント増加している。
- ◆ (小中) 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒は、小学校はH31年度と同程度、中学校は5.7ポイント増加している。

- ⑥学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか(小)



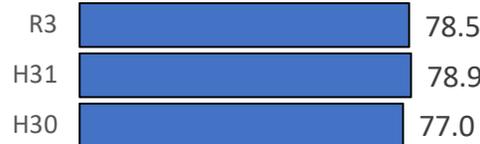
R3全国値:78.8

- ⑥生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか(中)



R3全国値:77.8

- ⑦5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか(小)



R3全国値:78.2

- ⑦1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか(中)



R3全国値:81.0

### キャリア教育関係

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

- ◆ (小中) 「将来の夢や目標を持っていますか」において、肯定的に回答した児童生徒は、全国値と同程度であるが、H31年度と比べると小学校は3.7ポイント、中学校は3.3ポイント減少している。
- ◆ (小中) 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」と回答した児童生徒は、全国値より多いが、H31年度と比べると小学校は1.3ポイント減少し、中学校は5.5ポイント増加している。

- ⑧将来の夢や目標を持っていますか(小)



R3全国値:80.3

- ⑧将来の夢や目標を持っていますか(中)



R3全国値:68.6

- ⑨地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(小)



R3全国値:52.4

- ⑨地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(中)



R3全国値:43.8

## 児童生徒質問紙調査の結果④

◆ (小中) 「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」について, 2時間以上と回答した児童生徒は, 全国値と比べると小学校は50.3で0.9ポイント多く, 中学校は50.3で6.7ポイント少ない。

※回答=「当てはまる, どちらかといえば当てはまる」を合算した値

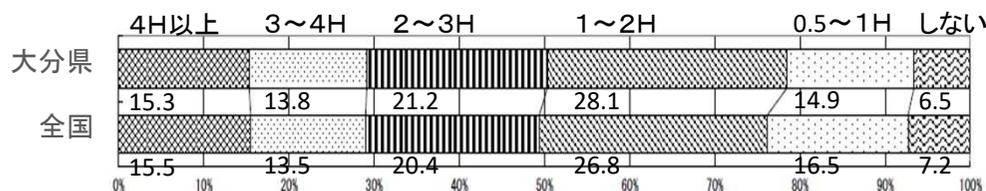
■ ⑩新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間に計画的に学習を続けることができた(小)



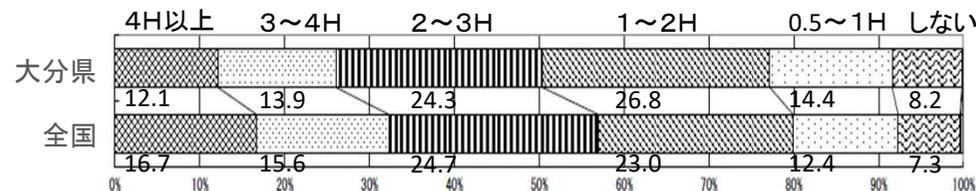
■ ⑩新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間に計画的に学習を続けることができた(中)



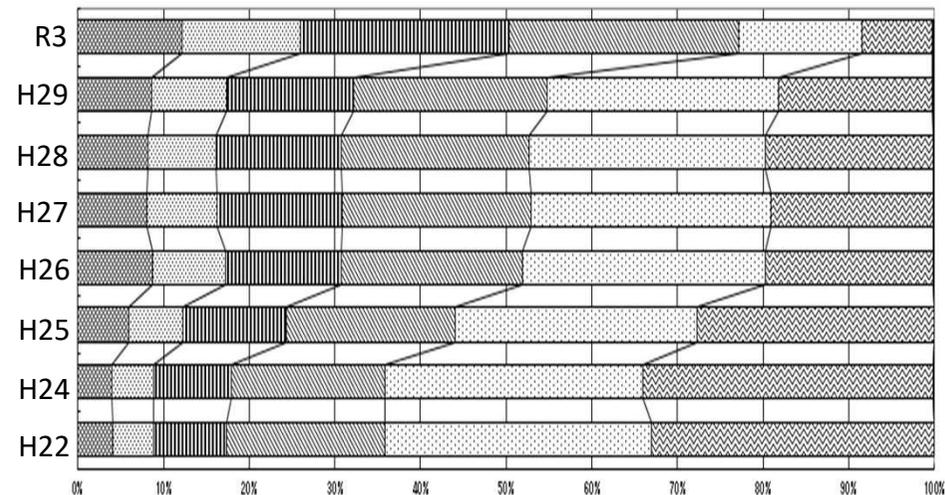
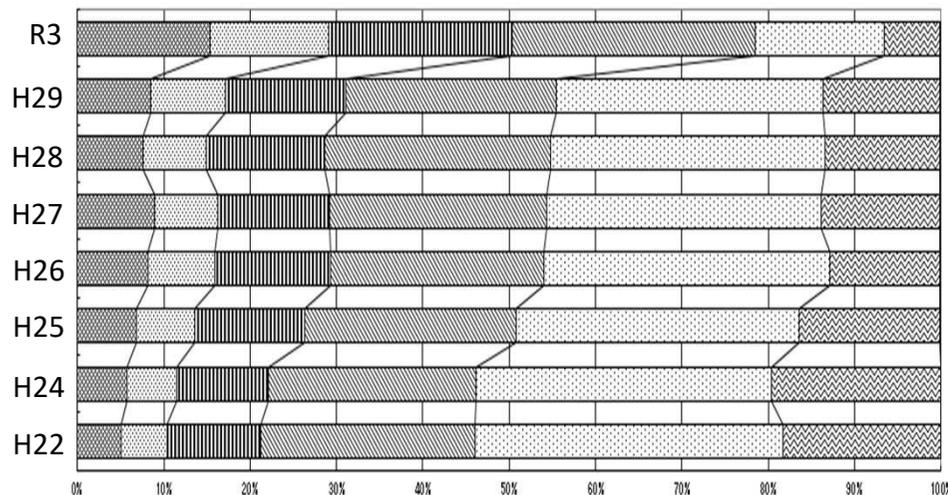
■ ⑪普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか(小)



■ ⑪普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか(中)



※大分県の経年変化の推移



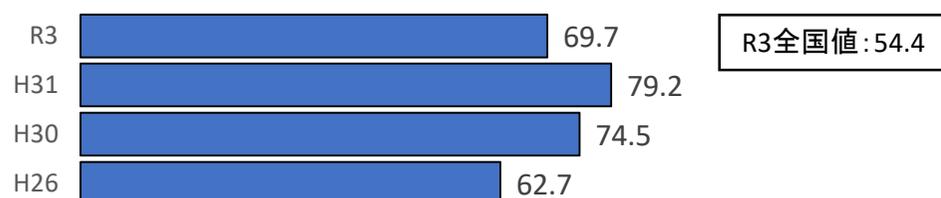
# 学校質問紙調査の結果①

## 学校組織

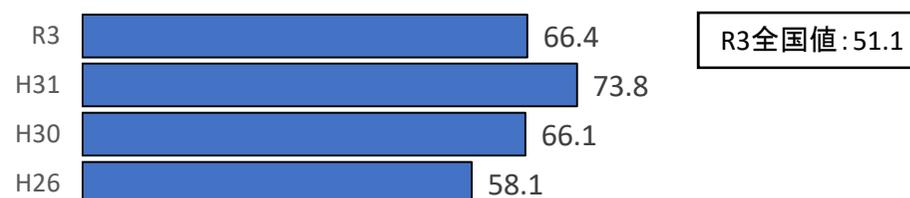
※回答=「よくしている」「よく行った」の値

- ◆ (小中) 「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる」と回答した学校は、全国値と比べると小・中学校ともに15.3ポイント多くなっているが、H31年度と比べると減少している。
- ◆ (小中) 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ってる」と回答した学校は、全国値と比べると小学校は6.3ポイント、中学校は12.1ポイント多くなっているが、H31年度と比べると減少している。

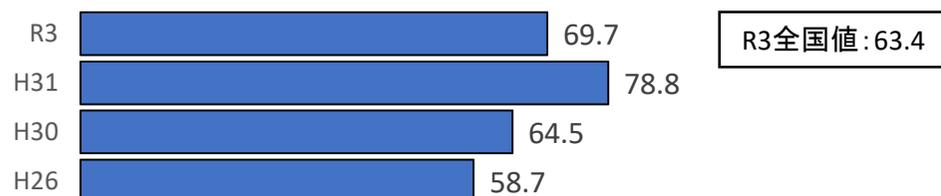
- ⑫学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか(小)



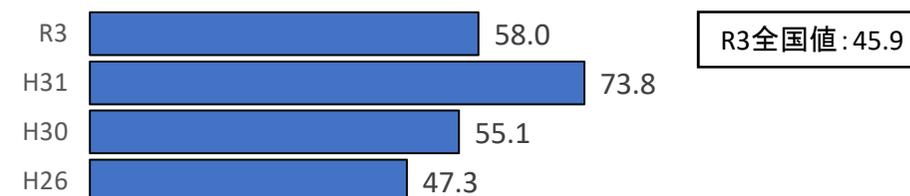
- ⑫学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか(中)



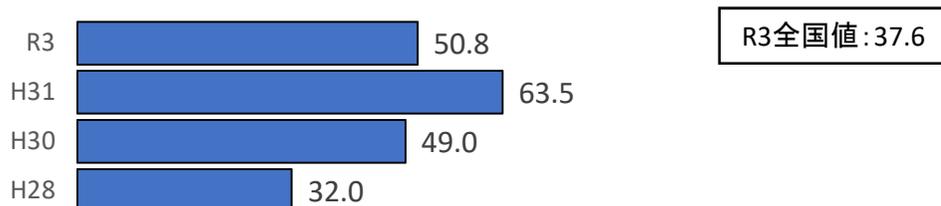
- ⑬授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか(小)



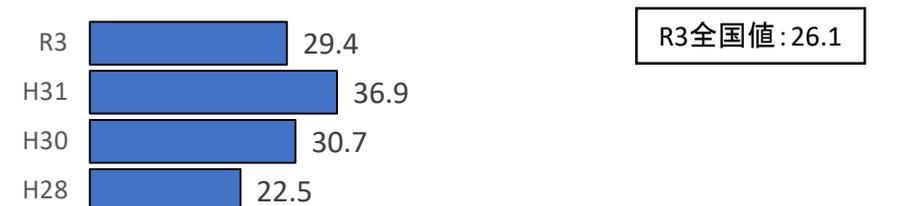
- ⑬授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか(中)



- ⑭指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか(小)



- ⑭指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか(中)



## 学校質問紙調査の結果②

### 新大分スタンダード

※回答＝「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合算した値  
「よく行なった、どちらかといえば行なった」を合算した値

- ◆ (小中) 新大分スタンダードに関わる項目については、高い水準を維持している。また、全国値と比べると、小・中学校ともに上回っている。
- ◆ ⑫の項目は児童生徒質問紙⑥の項目と同じだが、大分県の児童生徒の肯定値は小学校は78.5ポイント、中学校は79.8ポイントと、児童生徒の肯定値の方がやや少ない。

- ⑮授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか(小)



- ⑮授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか(中)



- ⑯習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか(小)



- ⑯習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか(中)



### コロナ関係

※回答＝「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合算した値  
「よく行なった、どちらかといえば行なった」を合算した値

- ◆ (小中) 「学習内容の定着が不十分である児童を対象とした補習を行った」と回答した学校は、全国値と比べると小学校は17.5ポイント、中学校は19.2ポイント多い。
- ◆ (小中) 「次年度以降を見越した教育課程の編成を行った」と回答した学校は、全国値と比べると小学校は8.0ポイント、中学校は8.7ポイント多い。

新型コロナウイルスの感染拡大で学校の全部を休業していた期間が終了した以降の当該休業への対応について

- ⑰学習内容の定着が不十分である児童を対象とした補習をした(小)



- ⑰学習内容の定着が不十分である生徒を対象とした補習をした(中)



- ⑱次年度以降を見越した教育課程の編成をした(小)



- ⑱次年度以降を見越した教育課程の編成をした(中)



## 分析と今後の取組

資料7

## 概要

## 小学校

- 国語で全国平均を上回る。
- 平均正答率の合計値は、全国平均を1ポイントを上回る。
- 九州トップレベルを維持。

## 中学校

- 国語で全国平均を上回る。
- 平均正答率の合計値は、全国平均を1ポイントを上回る。
- 九州トップレベルを維持。

## 分析

- 新型コロナウイルス感染症対策での臨時休校等により学習内容の精選等行われたが、児童生徒の学びの保障をする取組が各学校で行われたことにより、一定レベルの学力を身に付けることができている。

- 小・中学校ともに、授業改善の取組は定着してきている。

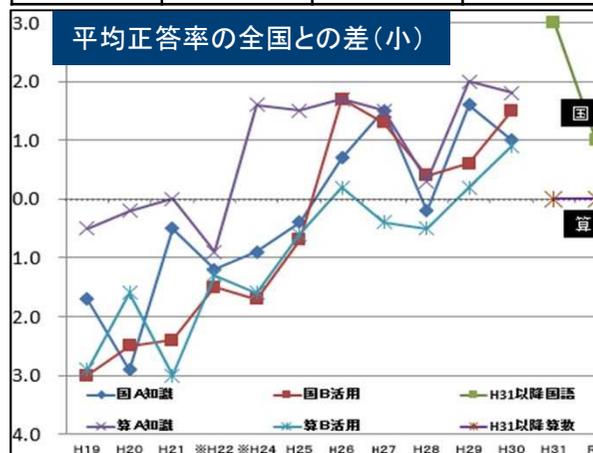
- 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業が浸透してきている。
- 付けたい力を明確にした単元設定や児童生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善をさらに進める必要がある。
- 特に、小学校国語の「読むこと」、中学校数学の「活用（記述式問題）」に課題があり組織的な授業改善を進める必要がある。

- 1人1台端末を活用した授業改善は進みつつある。

- ICT機器を活用した授業の実施頻度は全国値より高い。
- 家庭学習を含めた1人1台端末の効果的な活用を一層充実させる必要がある。

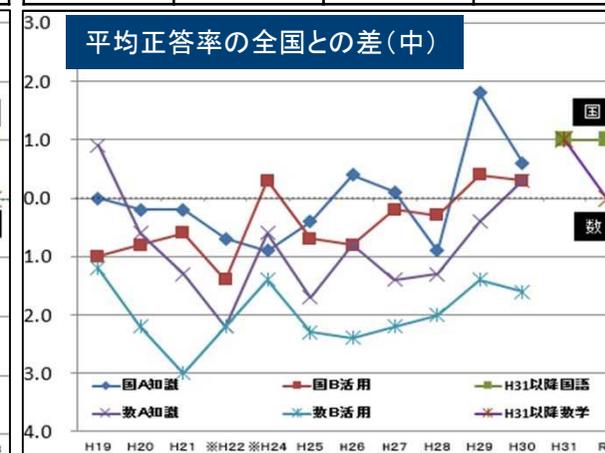
## ①小学校(第6学年)の平均正答率

教科	国語	算数	合計
大分県	66	70	136
全国	65	70	135



## ②中学校(第3学年)の平均正答率

教科	国語	数学	合計
大分県	66	57	123
全国	65	57	122



- H31調査から、「A知識」「B活用」の区分を分けずに実施
- R2はコロナ禍により中止

## 学力向上に向けた今後の取組

## 1. 授業力を高めることにより、自立した学習者を育成する組織的な取組の推進

- ①「2020からの授業づくりハンドブック」「早わかり！単元計画の作成手順」等を活用した実践や研修の充実
  - ・「新大分スタンダード」の質の向上 ⇒ 主体的に学習に取り組むための「めあて」「振り返り」の位置付け ⇒ 生徒指導の3機能を意識した授業のさらなる推進
- ②家庭学習を含めた1人1台端末の効果的な活用等による指導方法・指導体制の工夫改善
- ③小学校高学年における教科担任制の推進 ⇒ 「分かる・楽しい」授業
- ④「授業力向上アドバイザー」による若手教員への指導支援
- ⑤中学校学力向上対策「3つの提言」のさらなる充実

## 2. Withコロナにおける特別活動や体験的な学習の保障

- ①自己有用感や達成感を味わわせる活動の工夫 ⇒ 「めあて」「振り返り」の位置付け
- ②学校行事等の教育計画の再編成
- ③キャリア・ノート等を活用した「目標をもって生きる意欲や態度」の育成